

新型 コロナウイルス ワクチン接種

消防本部 からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について

ワクチンってどんな効果があるの？ 副反応って？？

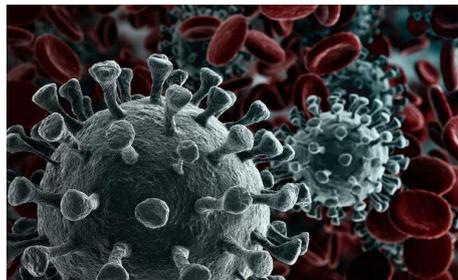
コロナウイルスって？？

現在 7 種類見つかっており、4 種類は一般的に風邪の原因となるウイルスで、感染してもほとんどが軽症で治癒します。重症化してしまう可能性のあるもので、現在感染拡大している新型コロナウイルス、SARS、MERSがあります。

必要な対応

各都道府県で感染が拡大し、連日感染者数が報道されています。今必要なことは、**感染しない、させない**ための意識や行動です。**不要な外出は控え、多くの人が密集する場所や換気の悪い場所の出入りはせず、人との不必要な接触は控えましょう。**

うがい、手洗いはとても有効です。しっかり正しい方法でこまめに実施しましょう。また、アルコール手指消毒も有効ですのでアルコール性消毒薬なども併せて活用する事が推奨されています。



※コロナウイルス イメージ図

各市で新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が始まりました。ここでは、皆さんに知ってほしい事、良くある質問等についてまとめています。

ワクチンの効果って・・・？

毒性を弱めた病原体を使って自然感染した状態にする

実際にその病気を発症させるわけではなく、弱めた病原体を体内に入れることにより、体が免疫を作り出します。事前に免疫を獲得することで実際の病原体が体内に入った時に戦える準備をしておきます。

どんな効果があるの・・・？

感染したときに重症化しない事が大きな効果でもありますが、症状が落ち着いていると排菌が抑えられ、他の人へ感染させる可能性も減ります。

一人がみんなのために、みんなは一人のために（集団免疫を目指す）

自分自身を守る事は非常に大切ですが、周りの皆さんも免疫を獲得していれば安心ですね。未接種の集団内で感染が発生すれば、クラスターとなり感染は拡大します。しかし、獲得した人がたくさんいる集団で発生した場合は感染が拡大せず、最小限で感染を止められます。家族、友人、会社の同僚を守るためにも、一人一人の免疫獲得が必要なのです。

ワクチンに対する不安・・・第1位・・・副反応

全てのワクチンには副反応はあります

副反応とは、ワクチンの成分に対してのアレルギー反応や、早期免疫と呼ばれる免疫反応により、本来の目的以外の症状が、局所又は全身に現れる事です。これは、新型コロナウイルス感染症ワクチンに限ったものではなく、症状の強弱はありますが、予防接種では高い確率で起こる反応です。

次のページで副反応を見ていきましょう。

副反応ってどんな症状??

ワクチン接種後、当日から数日にかけて起きる副反応

一番多い副反応は接種部の痛みで、接種した日よりも翌日に痛みを強く感じる人が多いようです。この他、**発熱、頭痛や悪寒、疲労感や関節・筋肉痛、下痢症状等**が主な副反応になります。**1回目よりも2回目の方が出やすく、症状も強くなる傾向にあります。**多くの人が2, 3日で症状は落ち着きます。個人差はありますが、**インフルエンザのような高熱や強い関節痛**が出る場合もあり**数日寝込んでしまう**人もいます。

主な症状	接種部の痛み	倦怠感	頭痛や関節痛	発熱
1回目 症状割合	90%以上	17%	13%	3%
2回目 症状割合	89%以上	66%	48%	38%
発症時期	接種当日から数日かけて発症する			

2回目になると症状が出る割合が増えていますね。 ※厚生労働省中間報告（順天堂大学病院コロナワクチン研究事務局調べ）

ワクチン接種後すぐに（接種会場で）起きる事がある副反応（**注意が必要**）

アナフィラキシーショック（ワクチン接種10万人にのうち約3.7人）

薬や食物が体に入ってから短時間の間に起こる事があるアレルギー反応です。じんましんや皮膚が赤くなる皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさ等の呼吸器症状などが、急に起こり、血圧の低下や意識状態が悪くなります。

起きる事は稀ですが、緊急に治療の必要があります。

※接種会場では内服薬や注射などでアナフィラキシーショックの対応ができる準備がされています。

血管迷走神経反射

ワクチン接種に対する緊張や、痛みによる立ちくらみ、血の気が引いて、時に意識を失ってしまう事があります。通常、横になって休めば自然に回復します。誰にでも起きる可能性があります。ワクチンに対する不安などがあれば医師や看護師に相談して下さい。

副反応が出たらどうすればいいの??

通常、発熱や倦怠感、関節・筋肉痛は数日で治まります。**十分に休息をとって体力を回復**しましょう。副反応が強く出てしまった場合、数日**食事摂れない場合、症状が改善しない場合**などは、**かかりつけの病院やワクチン接種をした病院**に相談しましょう。

また、ワクチン接種時に副反応が出た場合の対応など、**事前に相談**しておくことも大切です。

当然、**命の危険を感じるような症状が出てしまった場合は迷わず119番通報**して下さい。

今までの生活を取り戻すためにも、また、ワクチン接種の受けられない、小さなお子さんや重篤な疾患を患っている方たちのためにも、正しい知識を持って、正しくワクチンを理解しましょう。

一人がみんなのために、みんなは一人のために